

# まきばのかぜ

2018年度 園だより 8月号

## 「平和」について考える

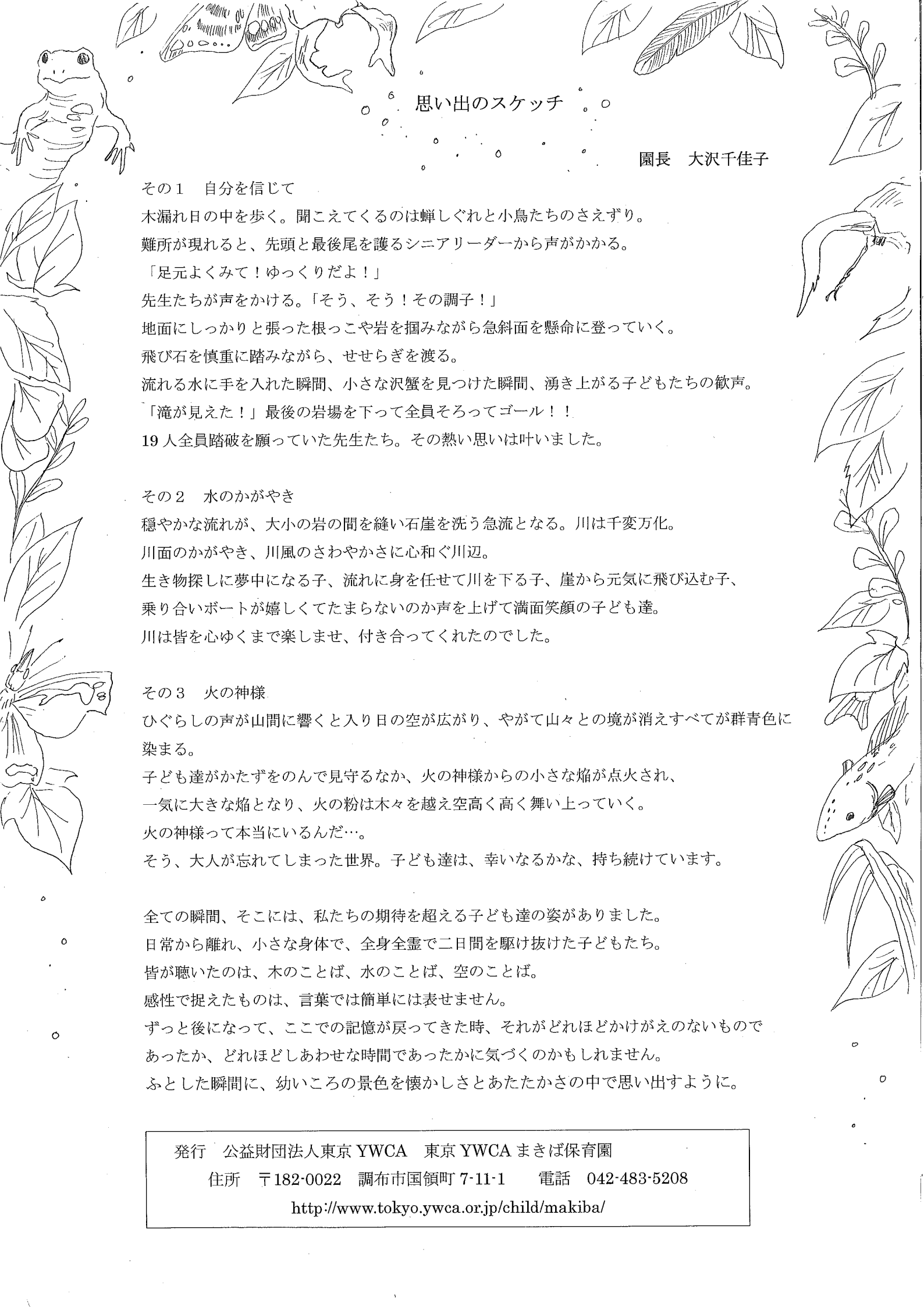
原爆投下、終戦の日を迎える8月。私は戦後まもなく生まれたので、戦争の悲惨さをたびたび耳にしました。満州から日本に向かう船で泣きながら自分の赤ん坊を海に捨てた母親の話、沖縄で米兵に見つからないように壕の中で泣き止まない赤ちゃんを自分の手で殺した母親の話、爆撃によって目の前で焼け死んでいく母の「お前は逃げろ」という声が今も頭から離れないと語る男性。戦争に反対した為に投獄された方、キリスト教徒が戦死され、その後、家族の反対を無視して靖国神社に祀られたという方の話も聞きました。一人の方が話してくれました。「戦争はいけない。人間が人間じゃなくなる。今、隣にいた大切な人が次の瞬間、冷たくなって死んでいる。悲しいことに、それが重なると人が死んでも何にも感じなくなる。大切な‘いのち’がちっぽけなものになってしまう。」いつの間にか戦争になっていた。悪い奴をやっつける正義の戦争だと教えられ、勝った、勝ったと喜んでいるうちに気づいたら負けていたと話してくださった方もいます。笑顔や人の温かさを奪った戦争、数えきれない死傷者と家族の悲しみを生んだ戦争が、いつの間にか始まったと考えると恐ろしいことです。こうした話が当事者から聞けなくなりつつあります。語り繋ぐ大切さも感じています。

その後も世界各地で戦争や紛争が勃発し、そのたびに失われるいのち、泣き叫ぶ家族。こうしたなかで経済効率優先の日本が作られてきました。地球上の少ない資源と富の奪い合いが激しくなるなかで、生産性がない、なんの取り柄もないと言われる人が攻撃され、排除されていく。環境問題、テロや暴力犯罪、先の見えない福島原発事故の後始末。高齢化に伴う国民の権利問題。虐待だけでなく無戸籍児や行方不明児についても忘れ去られ、多くの自殺者が毎日のように出て何にも感じなくなる社会。これで、今の日本は平和と言えるのでしょうか。

「平和」とは、「共存・共生」していくこと。人と人、国と国は、それぞれ違って当たりまえ。その不都合さも感じながら、互いに知り合い、工夫しながら乗り越えていくしかないのです。今起きている事件や事故は私たちに何を教えているのか…。世界では子どもたちが5秒に1人が死んでいるとも聞きます。私たちが“関心を持つ、知り合う、声をかけあう”ことから始めなければなりません。きっかけは、すぐそばにあります。家庭で食べる、歌う、話しを交わすことから始めることも出来ます。大人が子どもたちに出来ることは、生きる楽しさや喜び、愛する人がいる素晴らしさを感じる場をつくと共に、「いのちと平和」への思いや考え方をつむぎ、つないでいくことです。見ていない、聞いていないように見えても、様々な事件事故を、親が、大人が周囲の人とどのように話しているかを子どもたちはしっかりと見て、聞いて、「本当に大切にしなければならぬものは何か」を自分のなかでつくりあげていきます。

「平和」とはケンカをしないことではありません。ケンカや対立があったとして、その関係をどうにかしようとする気持ちが平和を支えていくのです。ケンカや意見が違うのはしょうがないよね。でもそれって悲しいよね。仲良くなりたいよね。そのためにどうしたらいいんだろう、君はどう思う？ そんな子どもたちへの問いかけを大切にしていきたいと思います。

副園長 瀬口哲夫



## 思い出のスケッチ

園長 大沢千佳子

### その1 自分を信じて

木漏れ日の中を歩く。聞こえてくるのは蝉しぐれと小鳥たちのさえずり。

難所が現れると、先頭と最後尾を護るシニアリーダーから声がかかる。

「足元よくみて！ゆっくりだよ！」

先生たちが声をかける。「そう、そう！その調子！」

地面にしっかりと張った根っこや岩を掴みながら急斜面を懸命に登っていく。

飛び石を慎重に踏みながら、せせらぎを渡る。

流れる水に手を入れた瞬間、小さな沢蟹を見つけた瞬間、湧き上がる子どもたちの歓声。

「滝が見えた！」最後の岩場を下って全員そろってゴール！！

19人全員踏破を願っていた先生たち。その熱い思いは叶いました。

### その2 水のかがやき

穏やかな流れが、大小の岩の間を縫い石崖を洗う急流となる。川は千変万化。

川面のかがやき、川風のさわやかさに心和ぐ川辺。

生き物探しに夢中になる子、流れに身を任せて川を下る子、崖から元気に飛び込む子、

乗り合いボートが嬉しくてたまらないのか声を上げて満面笑顔の子ども達。

川は皆を心ゆくまで楽しませ、付き合ってくれたのでした。

### その3 火の神様

ひぐらしの声が山間に響くと入り日の空が広がり、やがて山々との境が消えすべてが群青色に染まる。

子ども達がかたずをのんで見守るなか、火の神様からの小さな焰が点火され、

一気に大きな焰となり、火の粉は木々を越え空高く高く舞い上っていく。

火の神様って本当にいるんだ…。

そう、大人が忘れてしまった世界。子ども達は、幸いなるかな、持ち続けています。

全ての瞬間、そこには、私たちの期待を超える子ども達の姿がありました。

日常から離れ、小さな身体で、全身全霊で二日間を駆け抜けた子どもたち。

皆が聴いたのは、木のこぼ、水のこぼ、空のこぼ。

感性で捉えたものは、言葉では簡単には表せません。

ずっと後になって、ここでの記憶が戻ってきた時、それがどれほどかけがえのないものであったか、どれほどしあわせな時間であったかに気づくのかもかもしれません。

ふとした瞬間に、幼いころの景色を懐かしさとあたたかさの中で思い出すように。

発行 公益財団法人東京YWCA 東京YWCA まきば保育園

住所 〒182-0022 調布市国領町7-11-1 電話 042-483-5208

<http://www.tokyo.ywca.or.jp/child/makiba/>